

<算数科における活用のポイント>

- ①数量や図形についての感覚を豊かにするために活用する。
- ②表やグラフを用いて表現する力を高めるために活用する。
- ③プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるために活用する。

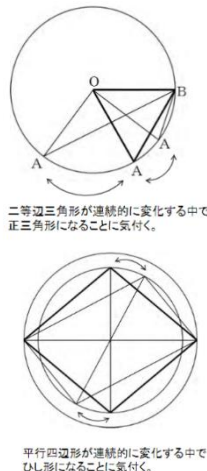
事例1 図形指導の充実 (身のまわりの図形探し★)

第3学年「三角形」

- ①円の中心と円のまわりをつないで三角形をかく。
- ②どんな三角形がかけられるか説明する。
- ③円周上の点を動かして、正三角形や直角二等辺三角形ができることを確かめる。

第4学年「垂直・平行と四角形」

- ①同心円の2本の直径を対角線とする四角形をかく。
- ②ひし形ができるときの対角線の交わり方について考える。



使う機能：無料アプリ「GeoGebra」

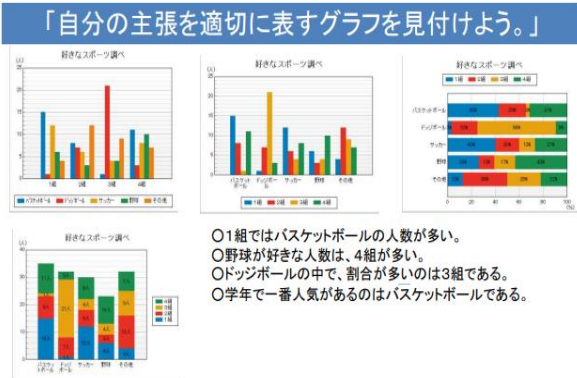
効果的ポイント

図形を動的に変化させながら、二等辺三角形と正三角形や直角二等辺三角形、ひし形と平行四辺形が相互に関係がある図形であることを感覚的に捉える。

事例2 表やグラフの作成

第5学年「割合のグラフ」

- ①グラフの基になるデータを表の形で配布する。
- ②表計算ソフトを使ってグラフを作成する。
- ③グラフから読み取れることを分析する。



使う機能：表計算ソフト

効果的ポイント

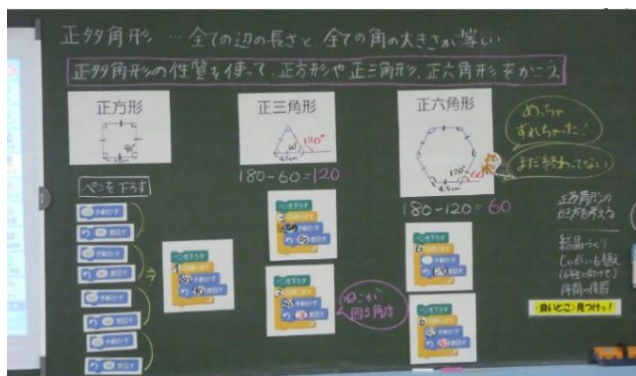
表計算ソフトを効果的に活用しながら、データの特徴や傾向を見いだしたり、見いだした特徴や傾向を分かりやすく表現したりする。

※児童のICTリテラシーやグラフが変化することへの慣れの度合いによっては、表やグラフを作成するのが難しい場合もある。そのような場合は、ノートなどの紙のほうがかきやすいので、児童の実情に合わせて活用する。

事例3 論理的思考力の育成

第5学年「円と正多角形」

- ①正方形を描くプログラムを作成する。
- ②正方形を描くプログラムを修正して正三角形や正六角形を描くプログラムを考える。
- ③正多角形を描くためにどの命令をどのように変えればよいかを考え、全体で話し合う。



使う機能：「Scratch」

効果的ポイント

論理的思考力を働かせ、どのようなプログラムを作成したら正多角形が描けるかを考える。